

平成 21 年度日本看護科学学会臨時社員総会 議事録

日 時：2009 年 5 月 30 日（日）13 時 30 分 - 16 時 15 分

場 所：東京大学 山上会館大会議室（東京都文京区本郷 7 - 3 - 1）

出席者：社員（代議員）：南裕子、数間恵子、井上智子、岡谷恵子、片田範子、高木廣文、田村やよひ、中山洋子、野嶋佐由美、牧本清子、正木治恵、村嶋幸代（以上、理事）、中西睦子、前原澄子（以上、監事）、安藤詳子、石井範子、薄井坦子、江川隆子、大西和子、大室律子、岡田洋子、尾崎フサ子、上別府圭子、亀井智子、北川公子、草刈淳子、小西恵美子、高橋真理、永井優子、中島紀恵子、久間圭子、三上れつ、水野道代、森恵美、山田覚、吉田千文

理事長指名理事：田中美恵子

名誉会員：飯田澄美子

世界看護科学学会第 1 回学術集会：山本あい子学術集会長、工藤美子

社員総数 169 名

議 長：南 裕子（理事長）

1. 開会及び理事長挨拶

1) 開会

会場出席者 29 名、委任状 89 名、書面議決権行使 13 名、全 131 名にて規定人数を満たすことが確認され、臨時社員総会が開催された。司会は数間副理事長、書記は、東京大学 大江真琴、東村志保で行われた。

2) 理事長挨拶【南理事長】

本学会は 4 月 1 日から非営利型一般社団法人として運営しており、本臨時社員総会は決算総会としての位置づけであることの説明があった。また今後は公益法人化を目指し、年末には理事の任期交代を控えていることから、学会の将来構想について活発な意見交換を求める旨の挨拶があった。

2. 議事録署名人の承認（南理事長）

議事録署名人として、名古屋大学 安藤詳子氏、東京大学 上別府圭子氏が推薦され、拍手により承認された。

3. 報告事項

（1）世界看護科学学会第 1 回学術集会の準備状況報告【山本学術集会長】

世界看護科学学会（以下、WANS）第 1 回学術集会は、2009 年 9 月 19 日、20 日に神戸国際展示場において開催予定であり、テーマは「看護知識の新たな領域の創造に向けた挑戦」である。5 月 25 日現在の参加登録者数は 688 人（国内 576 人、国外 112 人）であり、また、演題登録数は 465 件（国内 320 件、国外 145 件）である。看護の世界的な学術集会の開催にあたり、本学会が事務局として中心的な役割を果たしていることについて言及があり、参画が呼びかけられた。

（2）第 29 回日本看護科学学会学術集会の準備状況報告【森学術集会長】

メインテーマを「文化を尊重した看護学の探求と貢献」とし、2009 年 11 月 27 日、28 日に幕張メッセ国際会議場イベントホールにて開催予定である。現在の演題登録数は 350 件で、登録期間は 6 月 2 日まで延長されている。2,800 人の参加を見込み、企画が進められている。

（3）平成 21 年度上半期理事会報告及び社員総会報告【南理事長】

資料に基づき、上半期（H20 年 10 月～H21 年 3 月）の理事会開催について、ならびに 2008 年 12 月定例社員総会、2009 年 2 月 22 日臨時社員総会開催について報告された。

4. 審議事項

（1）平成 21 年度上半期事業報告の承認

1) 第 28 回日本看護科学学会学術集会開催【数間副理事長】（資料 p. 10）

安酸学術集会長のもと、2008 年 12 月 13 日、14 日に福岡国際会議場等で開催された。テーマは「ケ

アリング・サイクルと看護科学 で、参加者総数は 2,667 名、演題数は 766 題であったことが報告された。

2) 和文誌の発行【正木理事】

第 28 巻 4 号ならびに第 29 巻 1 号が発行された。オンライン投稿・査読システムの試行が開始され、現在、オンラインによる投稿を中断して、システムの内容と運用上の問題点について検討が行われていることが報告された。

3) 英文誌の発行【村嶋理事】

第 5 巻 2 号が発行された。英文論文作成の啓発を目的として第 28 回学術集会において交流集会を開き、編集長によるセミナーを開催した。6 月 13 日にも同様のセミナーを企画している。Science Citation Index Expanded (SCIE) および Social Science Citation Index(SSCI) への登録に引き続き、MEDLINE への登載が確定した。International Advisory Board の任期満了に伴い、新メンバーが確定したほか、専任査読者リストが作成されたことが報告された。

4) 看護学学術振興対策

看護学学術用語の検討【野嶋理事】

「看護学を説明する重要な用語」の特定化を目的として評議員 170 名を対象としたデルファイ法による調査を実施し、70 名から回答を得て 126 語が選定されたことが報告された。今後、第 2 回のデルファイ法による調査を実施する予定であり、協力が呼びかけられた。

国際活動の推進（世界看護科学学会の支援を含む）【牧本理事】

異文化データベースへ 8 力国の情報を追加したことが報告された。また、WANS への支援として、発起会の準備を行っている。参加予定は、国内 8 団体、国外 9 団体である。

看護倫理の検討と啓発【片田理事】

学会に所属する研究者として期待される科学者としての在り方について検討し、「日本看護科学学会 科学者の行動規範」ならびに「日本看護科学学会における研究活動に係る不正行為への対応に関する申し合わせ」を作成した。それぞれについて HP 上でヒアリングを実施し、理事会を経て最終決定に至ったほか、会員が所属する組織に倫理審査委員会がない場合、当面のあいだこれを支援する目的で研究倫理審査委員会を設置することが決定し、研究倫理審査委員会規程が作成されたことが報告された。今後、研究・教育機関ならびに医療機関における看護研究倫理審査体制についての実態調査を予定している。

研究成果の蓄積と活用（平成 22 年度診療報酬改定に向けての活動を含む）【岡谷理事】

平成 22 年度の診療報酬改定に向けて、昨年度に研究助成を行った研究の成果に関して技術評価の提案書を提出した。また、平成 24 年度の改定に向け、本学会誌に投稿された論文をレビューすることによって現行の看護行為について技術評価の可能性を模索し、今後の研究の方向性について提言を行うべく作業を進めていることが報告された。

5) 研究助成事業の実施【岡谷理事】

看護技術評価研究助成事業に対して 2 件の申請があり、審査が実施され、理事会にて採択が承認された。結果は HP 上に公表され、4 月に助成金が贈呈されて研究が開始されたことが報告された。

6) 学術研究論文の表彰【井上理事】

表彰論文を選考し、優秀賞論文 2 編、奨励賞論文 2 編について、昨年 12 月の総会時に表彰を行ったことが報告された。受賞者とその論文については、過去のものを含めて HP に掲載されている。

7) 学会組織の強化・発展、公益法人に向けての活動【数間副理事長】

2009 年 4 月 1 日から非営利型一般社団法人へ移行することに向けての定款改正案を作成し、臨時社員総会で審議を行い、全会一致で採択されたことが報告された。また、公益法人として認定されるための定款改正に向けて活動していることが報告された。

8) 社会貢献活動の強化【中山理事】

第 28 回学術集会において、一般市民を対象とした市民フォーラム、中学生・高校生を対象としたナ

ーシング・サイエンス・カフェ、看護の研究成果の体験コーナーを企画し、学術集会事務局と協力して活動を行ったことが報告された。

9) 広報活動の強化【田中理事】

学会 HP の維持・管理・改善を行い、各委員会活動の情報を発信している。WANS への支援では、HP の管理と後方支援を行っている。第 28 回学術集会では、各関係機関への後援依頼、プレスリリース、プレスブースの設置による宣伝活動、アーカイブ活動などの活動が展開されたとの報告があった。

10) 他機関との連携活動【数間副理事長】

以下の 4 つの機関との連携について報告があった。

日本看護系学会協議会

厚生労働省による「診療行為に関連した死亡調査分析モデル事業」への協力依頼に対し、本学会から評価委員の推薦を行った。また、日本学術振興会科学研究費補助金の時限つき細目の候補として、「異文化看護」「感染予防」「看護技術」「スキンケア」「創傷看護」を提案した。

看護系学会等社会保険連合

平成 22 年度の診療報酬改定に向け、看保連の看護技術評価検討委員会と診療報酬・介護報酬のあり方検討委員会において、看護技術評価申請書及び要望書の作成を行っている。

日本学術会議

協力学術研究団体として緊密に連携を取りながら、日本学術会議から発信される情報を会員へ提供している。

その他の機関

第 28 回日本医学会総会からの協力依頼に対し、コメディカル部門の教育講演やシンポジウムを提案し、講演者等の候補を推薦した。

11) 理事選挙【数間副理事長】

平成 21 年度の選挙実施に向けて、定款、定款施行細則、代議員・役員選出規程の確認、マークシート方式導入の確認、スケジュールの検討が行われた。公示については、各員へ送付済みであることが報告された。

以上の各事業の報告に対し、会場から質問の提示はなく、拍手によって承認された。

(2) 平成 21 年度上半期決算の承認および会計監査の承認【田村理事、中西監事】

今年度上半期の決算について、田村理事より、資料に基づいて説明された。

収支計算書について（資料 pp.14-17）

- ・収支計算書は、平成 20 年 10 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日までの内容を示している。
- ・収入の一般の部のうち会費収入は、半年分として総額を折半した 2,948 万円を計上している。
- ・収入の一般の部のうち「その他の雑収入」の 14 万円は、昨年度の法人税の還付に際し、加算金として付加されたものである。
- ・収入の学術集会の部のうち雑収入にある「その他」の 38 万円は、業者からの物品等の販売収入である。
- ・事業費支出のうち和文誌の発行費が予定より多いのは、ページ数増や会員増によるものである。また、英文誌の編集活動費が予算を上回っているのは、投稿数が増えたことに伴って査読関連業務が多くなったことによる。
- ・総務費における公益法人化推進委員会費支出がないのは、定款の登記にかかる請求が 4 月以降になったことによる。
- ・管理費支出において給与手当支出が多くなっているのは、理事会の開催回数が増えたこと、2 回の社員総会が開かれたことなど活動が活発であり、アルバイト人員への支払いが増えたことによる。旅費交通費・通信運搬費・消耗品費支出についても、支出が多くなっているのは上半期の活動が活発であったことによるものである。
- ・寄付金支出において予算にない 100 万円の支出があるが、これは当初、下半期に支出を予定していた WANS への寄付が、早期から活動が活発になったために、上半期で支出したものである。
- ・選挙費用支出がないことについては、上半期（3 月末まで）において選挙管理委員会が開催されな

かったことによる。

- ・ 学術集会の部において、人件費支出が多くなっているのは、会場費や会議費等の支出が抑制できたことで当初予算化されていなかったアルバイトへの謝金を実現したことによる。会場費支出のうち、会場運営費支出がないのは、機材設備使用料支出とあわせて請求があったことによる。
- ・ 学術集会の部において予算にない委託費支出があることについては、参加者および会員へのサービスとして学術集会の内容を収録した DVD を業者に委託して作成したことによる。
- ・ 第 29 回学術集会については、現段階で予算化が行われていない。
- ・ 資産会計の部で什器備品購入支出が多くなっているのは、旧型のパソコンの買い替えを行ったことなどによる。
- ・ 上半期では、収入 7,066 万円、支出 7,446 万円で、総じて 380 万円の赤字決算となっている。今年度はもとより赤字になる予算をご承認いただいていたが、WANS に対する寄付の繰り上げが影響したと考えられる。前期繰越差額が 7,181 万円であったため、今期の繰越収支差額は 6,800 万円となっている。

損益計算書、一般会計貸借対照表、一般会計正味財産増減計算書、一般会計財産目録について（資料 18～27 ページ）

- ・ 損益計算書から財務諸表に対する注記までの表において、当期決算額は 6 か月分であるが、前年度の額は 12 か月分である旨説明があった。
- ・ 当期の経常収益計は 7,066 万円、経常費用計は 7,178 万円で、税引前の当期純利益はマイナス 112 万円となり、利益がマイナスなので納税する法人税は都民税の均等割分のみとなる。税引後の当期純利益はマイナス 116 万円となっている。

会計監査

中西監事より、資料に基づき、会計監査についての報告があった。

会計報告に関連し、会場参加者より以下の質問があり、回答が行われた。

質問：支出に関する報告について、学術集会の部にある委託費支出のその他の項目で、業者に委託して DVD を作成したという説明であったが、予算の際には計画がなかったということか。

回答：（田村理事）予算の時点では計画がなく、事業経過の中で会計に余裕が出てきたことから作成を企画したものである。

（南理事長）会員への利益還元に併せ、300 万円の収益に対する課税を回避する意味があったものだが、予算にない出費をすることについては健全とは言えないため、今後は、12 月の学会総会における予算に対して必要に応じて補正予算を組み、6 ヶ月後の社員総会（6 月頃）の席で承認を得ることを検討している。予算の詳細な調整については、理事会での実施を考えている。

その他、資料 17 ページの注記 7 に誤字があることが指摘され、以下のとおりに修正された。

誤「やむ追えない」 → 正「止むを得ない」

平成 21 年度上半期の決算及び会計監査報告について、出席者の拍手によって承認された。

（３）本学会の将来構想について（事業内容、組織運営、基金の活用等についての意見交換）

【南理事長】

南理事長より、本学会の将来のビジョンについて、看護師の学会組織としてのアイデンティティやこれから担うべき役割や活動の可能性、公益法人化、活動費等の財政的な課題等について意見交換を行いたい旨、表明があった。

出席者より、看護系出版物の質、学会誌のコンセプト、若手研究者へのアピール、学会員による意見交換や議論・討論の活性化、国際的な視野をもった活動の展開、学会の発展と学術性の担保に関して、理事を交えた意見交換が行われた。

５．閉会

最終的な出席者は、会場出席者 36 名、委任状 89 名、書面議決権行使 13 名を含めて合計 138 名であることが報告され、平成 21 年度 5 月臨時社員総会が終了した。

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により以上の議事を認め署名捺印する。

平成 21 年 7 月 31 日

議 長 南 裕子

議事録署名人 安藤 詳子

議事録署名人 上別府圭子